

第15回 ちゅうでん教育振興助成（平成27年度）

報告書資料 一般 - 108

学校名・団体名	熊本市立城西小学校
HPアドレス	http://www.kumamoto-kmm.ed.jp/school/e/jyoseies/index.htm
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	子どもたちの笑顔とつながるために（心のケアへの取組）
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>平成28年熊本地震を被災した子ども及び教職員が、心のケアサポートをベースに震災や自分自身の心と向き合い、教育活動を通して失われた時間と心を取り戻すために取り組むことをねらいとする。</p>	

子どもの笑顔とつながるために (心のケアへの取り組み)

1. 実施計画に至るまでの経緯

本校は、平成28年4月14日と16日に、震度7強の前震及び本震に遭った。子どもや家族の生命は守られたが、家屋及び心に大きな傷を受けた。学校は避難所運営をしながらも、26日ぶりに学校再開にたどり着いたが、大きな課題は「子どもの心のケア」であった。再開から3週間目に入り、保護者からも「夜眠れない」等の症状が現れてきた。兵庫県教育委員会の震災・学校支援チーム EARTH (以降 EARTH) から、震災直後からアドバイスをいただき、本校の中に「子どもの心のケアサポートチーム」というプロジェクトチームを設置した。本活動は、このチームを核として学校全体で取り組む実践をまとめるものである。

2. 活動内容

(1) 活動の方向

震災を通して受けた心の傷を癒すためには、失われた時間を取り戻すための教育活動の日常化と共に、震災を忘れるのではなく、向き合いながら乗り越えていく生き抜く力の育成が必要である。震災に遭った平成28年度だからこそこできる取り組みを子どもや教職員の負担軽減に配慮しながら取り組んでいく。そのために、ICT機器を積極的に活用していく。また、落ち着いた時間と空間を取り戻すために、読書の効果を重視し、子どもの心のケアにつながる図書の購入及び読書活動の充実を図る。

(2) 心のケアサポート

① 学級活動や集会等を中心とした子どもの心のケアサポート

○全校集会における校長講話

月1回の全校集会や始業式・終業式等において、校長講話や子どもの心に働きかける絵本の読み聞かせを、ICT機器を活用して、視覚的に語りかけた。

○心のケアサポートチームの取り組み

本校では、地震直後に職員の健康安全部を中心に各学年の代表からなる「心のケアサポートチーム」を組織した。そして、EARTHのアドバイスを受けながら、休校中にやるべきこと(安否確認、通学路点検、校舎点検等)や学校が再開してからの取組み(全校朝会、避難訓練、ソーシャルスキルトレーニング、運動の機会の確保等)について意見交換を行った上で実践してきた。常に「子どものケア」を最優先に考え、100パーセントの力ではなく50パーセントの力で長続きするようにやっていくことを確認し取り組んだ。

・健康観察及び健康アンケート

担任による毎朝の健康観察を丁寧に行い、学校再開後は5項目からなる「健康アンケート」を毎週実施し、必要に応じて家庭への連絡を行った。その後、1学期は月1回、それ以降も学期1回と教育委員会からの調査も含めて実施してきた。また、保護者へのアンケート同時に行い、学校と家庭での児童の様子の違いについても把握した。児童アンケートでは高くなかった「感情の変化がはげしい」の項目は、保護者アンケートでは40パーセントほどの保護者が「ある」と回答しており、この結果を職員が十分に認識しつつ、対応に活かしてきた。さらに、必要に応じてスクールカウンセラーの面談も行ってきた。

・学校保健委員会

「災害後の心のケアについて」をテーマに、学校医、学校薬剤師、校区担当保健師、PTA役員、学校関係者、心のサポート相談員、さらに当日北海道から本校に支援に来ていたスクールカウンセラーも参加して、学校保健委員会を行った。保護者からは「子どもの感情の変化が激しくなった」「これまで一人でできていたことをやるのが難しくなった」等の意見が出されたが、「それは異常な事態への正常な反応である」「子どもを見守る環境を作り、大人は心のアンテナを張っておくとよい」「大人の心のケアも大事」等の専門家からの指導・助言や意見交換があり、とても有意義な会となった。

② 震災に向き合い、仲間と笑顔でつながり、絆を深めるための取り組み

○地震の翌日に実施予定だった歓迎遠足(1学期)

学校から再開して4日後に、地震で実施を見合わせていた1年生の歓迎会及び歓迎遠足を学校近くの石神公園で実施した。全校児童及び全職員に見守られ、伸び伸びと遊びまわる1年生の姿に元気をもらった。

○復興への願いをこめた七夕祭り(1学期)

今年は、2つの学年を組み合わせた3つのグループに分け、七夕祭りを実施した。学校応援団長と校長、教頭で、2・5年夢と元気がモリモリで賞、1・6年夢ダブルですてきで賞という賞を贈った。



校長の読み聞かせ



元気に遊ぶ歓迎遠足

○運動会の取り組み（2学期）

いつもは5月に実施する運動会だが、PTA執行部と相談し、今年度は2学期に延期して実施した。保護者や地域に笑顔と元気を届けることを目標にして取り組んだ。特に震災からの復興をテーマしたわけではないが、「勝っても負けてもそれが君の金メダル」をテーマに、学校の日常の元気を見てもらうことにしたが、6年生の「城西ソーラン 2016」には、地域全体が復興を心に刻んだに違いない。改めて、子どもたちのもつエネルギーに感動すると共に、地域に学校支援のお礼ができてよかった。



元気を届けた6年生の城西ソーラン 2016

○学習発表会の取り組み（2学期）

授業時数確保から、今年は音楽に絞った「ちはら音楽ひろば」として学習発表会を実施した。運動会と共に、子どもたちのさわやかな歌声に、復興へのエネルギーを感じる発表会となった。

○4年生二分の一成人式（3学期）

毎年実施している二分の一成人式であったが、特に保護者から守ってもらったという親への感謝の言葉が聞かれた。ベルマーク財団から寄贈された大型スクリーンで映像と共に子どもたちの発表や歌声が体育館にこだました。



感謝の思いを伝える二分の一成人式

(3) 心のケアを高める図書館利用

①「ブックトークと読み聞かせ～心が穏やかになる本を読もう～」

熊本地震による心の痛みを癒すには、心が穏やかになる読書が効果的だと考える。それは、様々な情報をきっかけに地震を思い出し、心がドキドキすることを抑えるのではなく、自分でコントロールするスキルを学ぶことにつながるからである。予算の中から、10万円分をこの図書購入費に当てた。テーマとして、「日本語の楽しさを感じてみよう」「文章がきれいな日本語で書かれた本」を購入して、読み聞かせ等により子どもたちに働きかけた。紹介した本は全て親の深い愛情や親を慕う子どもの優しい気持ちが表現されている本である。長く読み継がれている本は、その文章力で熊本地震により強い不安を感じた子どもたちの心に安心感と心地よさを与える力がある。読み終わった時の子どもたちの中に漂う空気感からそう感じた。



心を穏やかにするブックトークと読み聞かせ

②「図書館を使って、調べ方を学ぶ～資料リストをつくろう～」

今回購入した本を使って、「防災」をテーマに図書館の役割の一つである授業支援として、資料活用の取り組みを行った。調べる時には、できるだけ多くの資料を見つけることが大切である。そこで、たくさんの図書資料から協力して自分たちに必要な情報を見つける作業を行うことにより、見つけることの楽しさや方法を学ぶ経験を目的として行った。「防災」をテーマにすることにより、地震への怖さという経験を対応という心の支えや自信につなげることができると考えた。

(4) 日常を取り戻す授業時数確保及び学力保障

地震発生から約1ヶ月休校となったため、子どもたちの学力を保証するための授業時数確保が大きな課題であった。職員会議や校内研修のために5時間授業であった月曜日を特別日課とし、朝の活動及び掃除をカットすることで、通常の45分6時間授業を設定した。2月まで週1時間の時数増により、授業時数を確保することができた。さらに、助成金及び学校備品により学年1台のプロジェクター及びマグネットスクリーンを購入し、使いやすくするための環境整備を工夫し、視覚的に情報提示することで、考えや思いが伝わりやすいようにする等工夫し、学力向上に努めた。



プロジェクターで考えを伝える授業

3. 成果及び今後の志向

○震災や自分自身の心と向き合いながら、運動会や学習発表会、企画委員会・学年の行事等を通して、これまで通りに子どもたちが自信を持って自己表現することができた。また、子どもたちの明るく元気な様子を保護者や地域の人々に見ていただくことで、見守っていただいている感謝の思いを伝えることができた。

○EARTHの方々からたくさんのアドバイスをいただき、学んだことを通して、子どもたちをはじめ保護者、教職員の心のケアに務めてきた。サポートチームを核としながら、定期的な心の健康調査を実施し、カウンセリングにつなげることができた。

○落ち着いた時間を過ごすための図書の購入をはじめ、読書活動の充実に努めた。さらに、調べ学習に使うことによる情報センターとしての機能の充実に図り、地震に向き合う力を高めるために取り組んだ。